



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

令和4年度 第1回人権教育主任研修会

令和4年5月17日（火）実施

研修Ⅰ「【講義】ネット人権侵害と部落差別の現実」

講師：一般社団法人 山口県人権啓発センター

事務局長 川口 泰司

日本や世界の人権基準が上がっている。
今こそ、人権意識・基準をアップデート。

【東京オリンピック・パラリンピック, SDGs, 国連「ビジネスと人権」, BLM】



「どうやってアップデートしたら…？」
「最近、部落差別って聞かないなあ？」
「今でも部落差別ってあるの？」
「寝た子はネットで起こされる？」

「まずは、差別の仕組み
を学ぶことからだね」



ネットは今、無法地帯になっている。
寝た子はネットで起こされる。



多様な人と渡り合うた
めに人権感覚が、今一
度求められている。

人権教育
↓
最先端教育



現代的差別といじめを生む構図は似ている。ネットでも同じことが起きているため理解しておこう。

- ①差別の無効化
- ②過度な一般化
- ③被害者責任論
- ④差別の正当化



現代的差別を生む構図

- ①差別はない・たいしたことはない
- ②自分の「利権」「特権」のために動く
- ③「だから嫌われる」「自己責任」
- ④差別ではなく批判をしている

いじめを生む構図

- ①いじめではない・たいしたことない
- ②自分を守るために仲間をつくる
- ③いじめをされる側のせいにする
- ④いじめをしていると思いたくない

現代の子どもたちは、デジタルネイティブ
です。ネットのバイアスにかかり、部落に
対してマイナスイメージが生まれます。
それが差別や偏見につながる恐れがあります。



【解決するためのポイント】
☆ネットは6割で信じる
☆先生が事前にチェック
☆人と出会わず体験



※デジタルネイティブとは、生まれた時からインターネットが身近にある世代

ネット時代において差別はより深刻に進んでいます。フェイク情報が凶器、武器として人々に破壊的なダメージを与えている現状があります。でも…SNSは差別をしない人もつないでいるのです。

「177 具は町内...」
「119, SDGs, 国連「ビジネス」

「部落差別解消推進法」
第1条「現在もおお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ…」(2016年12月6日施行)

無知・無理解・無関心が差別を生んでいる。「差別をしない」教育から「差別を許さない」教育へ。

「それはちがうよ」「まちがってるんじゃないの？」とマジョリティ側が声をあげることが大切です。それが、差別解消の第一歩につながります。マジョリティの特権を生かした人権教育を推進することがこれからは必要かもしれません。



なんかおかしい？
【気づく】

何がおかしいのだろう？
【とらえる】

人権教育から学ぶ
【知る】

間違いを自分の言葉で語れる力を
【行動する】

【受講者の感想】

- ・熱い思いに涙が出ました。同和問題学習をどのように進めていけばいいのかもよく分かりました。
- ・子どもたちの無関心は、私たちにも責任がある。私たちも勇気を出して子どもたちに教えていきます。
- ・ネットの普及による差別事象に危機感を覚えた。リアリティを持って今後、人権教育に向き合っていきます。



研究員16名 始動!

—次世代を担う 高知の子どもたちを育成するために—



「研究員制度」とは、教職員が学校等で実践しながら教育課程や学習指導法、学校・学級経営などについて研究を深め、その研究の成果を高知市全体に普及し、学校教育の振興・充実に資することを目的に、教育研究所が行っている研究制度です。

研究領域	研究員【敬称略】	所属	研究テーマ
教育相談	西森 真紀	横浜新町小	不登校児童への支援の充実を図るプロジェクト会のあり方
	井上 美智子	南海中	支援を必要とする生徒に主体的に関わる教職員集団 —校内適応指導教室コーディネーターとしての情報発信の在り方—
特別支援教育	澤良木 愛	高知特支	知的障害特別支援学校中学部における伝える力を育てるためのGIGAタブレットの実践を通して
授業研究	長山 昌子	小高坂小	推敲活動を通して「目的や意図に応じた書く力」を育む国語科の授業
	清田 尚吾	朝倉小	文章と情報を関連付けて表現しあう国語科授業 —子どもが活用できる力の育成を目指して—
	森澤 卓三	潮江中	他者とのコミュニケーションを通して話す力を育成する国語科の指導
	石川 剛史	泉野小	関数的な見方・考え方を育むための、つまずきやすい視点に着目した系統的指導の在り方
	竹村 太希	春野東小	算数科における系統性を意識した、統合・発展的な授業づくりについて
	森本 哲平	春野中	具体的な事象を用いて単元を構成することで子どもが関数を学ぶ意義を実感できる授業づくり
	岡崎 広典	久重小	小学校外国語科における小中連携を意識した即興的な会話の指導
情報教育	広瀬 ちひろ	行川学園	「主体的・対話的で深い学び」を実現する言語活動につながる中間指導の工夫
情報教育	川崎 愛	高知商業	ICT活用による日曜市の課題発見解決策を考える実践研究
人権教育	合野 友成	長浜小	確かな人権意識・人権感覚の育成につながる教育実践 —部落問題学習カリキュラムの構築を通して—
	大森 侑		
学校事務	田中 朋広	久重小	目的意識をもった計画的な予算要望を目指して
	藤川 修堂	春野中	

2022.7.14 現在

【本年度の研究の一部について紹介します】

一人一人にあたたかな居場所を

「不登校を生じさせない学級・学校づくり」を進めるため、不登校を未然に防ぐ取組や早期発見・早期対応の組織的な取組を推進します。安心して過ごすことができる居場所づくりを目指します。

9年間の学びをつなぐ授業改善

義務教育9年間の学びをつなぐ学習指導の充実と小中連携の促進。見方・考え方を働かせて、未来を切り拓く力を育む教育の在り方とは？国語科・算数科・外国語科を通して迫ります。

高知を支える人材育成

全国水平社創立100周年。そこに込められた願い。次世代に継承したい思い。100周年を迎えた今だからこそ、高知の未来を担う子どもたちと共に、人権教育について考えます。

研究計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究員決定		入所式 (5月16日)	全体定例会 (6月13日)	定例会 (領域別)	中間報告会 (8月25日)	全体実践発表(公開授業等) 各領域における実践発表 定例会(領域別)			研究紀要原稿 ・成果物提出	終了式 (2月17日)	研究紀要 完成・送付	

学習会「学校が変わる・子どもが変わる I —授業実践研究—」

講師：高知大学 刈谷 三郎 名誉教授

今回の学習会は、これまで多くの教育論文の審査に関わってこられた刈谷名誉教授からご指導いただきました。研究の具体的な取組や教育論文作成のための心得を学びました。

時代が見える。子どもの心の動きが見える。
授業の先が見える。自分自身が見える。

オリジナリティ溢れる教育実践論文が完成されることを期待しています。



【今日からできる研究の具体的な取組(心がけと志)】

- ① よい授業を創造するためには、**よい授業**に学ぶこと。
- ② **メモを残す**。10年たてば、世界で一つしかない資料となる。
- ③ 研修から研究へ転換し、**アウトプット**することを恐れない。
- ④ これからの教員は、**クオリティ**が問われる。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。

